

平成30年度 中山間農業研究所 研究課題一覧表

番号	部署	研究課題名	課題区分 (主管課) 研究期間	研究の目的	主な研究内容
1	本支所	夏秋トマトの革新的20t穫り多収穫栽培システムの開発	ナパ-1プロジェクト (農政課) H26～30	○独立袋栽培を発展させた岐阜県オリジナルの夏秋トマト多収穫栽培システムの開発をする。	①低コスト栽培システムの開発 ②品種選定と多収栽培技術の開発 ③適正な養液管理技術の開発 ④現地試験による実証
2	支所	夏期高温に対応した水稻品種の育成と良食味栽培技術の開発	温暖化プロジェクト (農政課) H29～33	○「あさひの夢」より収量性が高く食味に優れる岐系203号を奨励品種に採用することにより、県内作付比率約5%が新品種に移行し、農家所得の向上に寄与する。	①「岐系203号」の良食味栽培技術の確立 ②品種登録出願に向けた特性把握 ③現地試験
3	本支所新	夏期冷涼な気候を生かした野菜産地における地球温暖化対策技術	温暖化プロジェクト (農政課) H30～33	○温暖化により多発している夏秋トマトの放射状裂果及び夏穫りホウレンソウの生育不良を回避するための対応技術を開発する。	①トマトの裂果軽減のための環境制御技術の開発 ②ホウレンソウの黒球を用いた低コスト遮光技術開発
4	本所新	夏期冷涼な気候を生かした果樹産地における地球温暖化対策技術	温暖化プロジェクト (農政課) H30～33	○温暖化により多発が予測されるリンゴの日焼け果及びモモの果肉障害を回避するための対応技術を開発する。	①散水や遮光によるリンゴ日焼け果の軽減技術開発 ②機能性果実袋によるモモの果肉障害発生防止
5	本所	飛騨・美濃伝統野菜「高原山椒」の生産安定と新商品の開発	2020プロジェクト (産業技術課) H27～31	○飛騨・美濃伝統野菜「高原山椒」のより一層の高品質化と生産安定を図ると共に、高原山椒を使用した新商品を開発する。	①有望系統の選抜 ②凍霜害の発生軽減技術の開発 ③高原山椒を使用した新商品の開発
6	支所	熟成技術によるクリ新品種の商品展開	2020プロジェクト (産業技術課) H27～31	○クリの新品種「えな宝来」及び「えな宝月」の熟成・加工技術に関する研究を行い、その優位性を見出すとともに特長を引き出した差別化商品の開発につなげる。	①気候温暖化がクリの品質に及ぼす影響の解明 ②温暖化対応技術の開発 ③熟成、加熱条件と風味、色調への影響解明
7	支所	国際社会に向け「ぎふ」をアピールできる輸出向け新花き品目の育成	2020プロジェクト (産業技術課) H27～31	○海外需要の取り込みによる販路拡大と創出、国内産地・花き産業の活性化を目指し、東京オリンピックで国内外に本県の先進性とステータスをアピールできる新しい鉢花品目を育成する。	①新たなブランド花き品種の作出 ②大型雨樋を利用した新たな栽培システムの開発
8	本所	飛騨エゴマの機能性に特化した新商品開発と総合技術開発	機能性プロジェクト (産業技術課) H28～32	○エゴマ油の安定供給を図るとともに、エゴマ栽培地域拡大による遊休農地の減少や地域振興を図るほか、エゴマ油の運動能力向上効果を活かした商品開発を行う。	①在来種の選抜による有望品種の育成 ②多収栽培技術の確立 ③最適な焙煎処理技術の解明 ④エゴマ油の機能性評価と新商品の開発
9	本所	国際競争に打ち勝つ飛騨地域産「コシヒカリ」の良食味米の玄米成分および栽培条件の明確化	重点 (農政課) H26～30	○飛騨産「コシヒカリ」の極良食味化のための栽培条件を解明する。	①移植期、かけ流し、刈取時期等と食味の関係解明 ②収量と玄米品質確保に向けた穂肥診断法の策定
10	支所	夏秋ナス「独立袋栽培」の高収量・省力・安定生産技術の確立	重点 (農政課) H28～31	○袋培地への直接定植と早期のハウス内栽培により、天候不順期の回避、早期からの安定生産と省力化、精密な養液管理による高単収の実現と「千両二号」及び「筑陽」の安定多収栽培技術を確立する。	①袋培地への直接定植による安定出荷技術の開発 ②肥培管理技術の確立 ③「筑陽」における独立袋栽培技術の確立 ④現地試験
11	本所	雨よけホウレンソウの施肥改善	重点 (農政課) H27～31	○地域のホウレンソウ栽培土壌は、雨よけ、連作かつ連年防除下という複雑な土壌環境にあり、窒素収支は不明の点が多い。そこでこれらを解明し、科学的根拠に基づく合理的施肥体系の構築を図る。	①慣行施肥体系における窒素収支の明確化 ②肥培管理の変化が生育・収量に及ぼす影響の解明 ③合理的、科学的施肥体系の構築

番号	部署	研究課題名	課題区分 (主管課) 研究期間	研究の目的	主な研究内容
12	本所	モモ新品種「飛驒おとめ」の地域適応性と栽培技術の確立	地域密着 H25～30	○岐阜県初のモモのオリジナル品種候補「飛驒おとめ」は、「白鳳」と「昭和桃」の中間時期に収穫でき、着色が極めて良好で糖度が高く食味良好なことから栽培技術を確立する。	①県内における地域適応性の評価 ②果実袋の選定や適期収穫による栽培技術の確立
13	本所新	夏ホウレンソウの難防除害虫・雑草の総合防除技術開発	地域密着 H30～34	○夏ホウレンソウにおけるコナダニ類の防除技術及びゴウシュウアリタソウの対策技術を開発する。	①天敵等を活用したコナダニの効果的防除法の開発 ②ゴウシュウアリタソウの生態解明と防除技術の開発
14	本所	飛驒ブランド「ひだほまれ・たかやまもち」の生育環境変化を踏まえた高品質生産体系の確立	地域密着 H29～31	○継続的な「たかやまもち」、「ひだほまれ」の安定生産に向けて、今後の気象変化にも対応する、新たな作型と施肥体系の確立を図る。	①「たかやまもち」品質改善に向けた作型・肥培管理の確立 ②「ひだほまれ」品質確保に向けた作型・肥培管理の確立
15	本所	「飛驒黄金」の長期安定出荷技術体系の確立	地域密着 H29～33	○新たに晩生で少脇芽の「飛系菊4号」を育成すると共に、これまでに育成した系統を用いた長期連続出荷体系を構築する。また選抜系統から効率的に採穂を行う技術を確立する。	①晩生で脇芽の少ない系統の選抜 ②選抜系統を用いた連続出荷体系の確立 ③効率的な採穂技術の開発
16	支所	シクラメン等中山間地鉢花のブランド化と生産安定	地域密着 H29～33	○シクラメンの黄色系新品種を育成するとともに、シクラメンの液肥底面給水栽培やエスレルを用いた省力栽培を確立する。また鉢花トルコギキョウの秋出荷と切り花利用技術を開発する。	①黄色系シクラメンの新品種育成 ②シクラメンの省力・低コスト生産技術の確立 ③鉢花トルコギキョウの作型開発
17	本所	飛驒地域に適したモモ、リンゴ等の品種選定と栽培技術の開発	地域密着 H29～33	○モモでは輸出用の品種選定と出荷体系を確立する。リンゴでは高温耐性品種・系統を選抜すると共に、障害果の防止技術を開発する。ヤマブドウでは安定生産技術を開発する。	①モモの輸出向け晩生品種の選定と栽培法の改善 ②リンゴの品種選定と障害果の発生防止対策 ③ヤマブドウの結実確保のための受粉樹の選定
18	支所	クリ新品種育成及び有望品種選定と「えな宝来」、「えな宝月」、「ぼろたん」の安定生産技術開発	地域密着 (一部外部資金) H29～33	○リレー出荷を可能とする新品種を育成する。また新品種「えな宝来」、「えな宝月」の栽培技術を策定し現地へ普及させ、「ぼろたん」の黒変果対応技術を確立する。さらに【国研】果樹研育成新系統の本県における特性を解明する。	①栗きんとん加工に適する早生・良食味品種の育成 ②クリの系統適応性検定試験 ③「えな宝来」、「えな宝月」の高品質安定生産技術の確立 ④「ぼろたん」の安定生産技術の開発
19	本支所	岐阜県産米を利用した新しいブランド品目の開発	地域密着 H29～33	○酒造好適米では美濃地域向けの酒米品種を育成する。また「ひだほまれ」、「たかやまもち」に対して強い穂発芽耐性を導入した同質遺伝子系統を育成する。	①「飛系酒61号」の酒米特性把握 ②「たかやまもち」、「ひだほまれ」のDNAマーカーを用いた難穂発芽系統の育成
20	本所新	稲出願品種栽培試験委託事業(種苗管理センター)	外部資金 H30	○出願品種を栽培し、その重要な形質に係わる特性を調査し、対照品種との区別性、均一性を明らかにする。	①出願品種と対照品種との区別性、均一性の評価
21	本所	軟弱野菜の高効率調整機の現地試験(革新工学センター)	外部資金 H30	○ホウレンソウ等の軟弱野菜を1株ずつ供給するだけで根切りと下葉取りが行え、手直しによる調整時間が削減できる高効率調整機の導入効果を明らかにする。	①調製機の導入による省力効果の評価